

◆一條彰子

「夏休みの教育普及活動」／『現代の眼』585号

「学校と美術館の連携」／『初等教育資料』No.866（文部科学省、2010年11月15日）

座談会「社会の中の美術館」／『100人で語る美術館の未来』福原義春編（慶應義塾大学出版会、2011年2月）

「子どもが見たアート十選」／日本経済新聞、連載（2011年2月17日～3月4日）

「更新し続ける合同研修」／『平成22年度活動報告書』（東京都図画工作研究会、2011年3月）

「JMMA基礎部門研究部会：博物館から見たミュージアム・リテラシー」／『日本ミュージアム・マネジメント学会会報No.59』Vol.15 No.4（2011年3月）

「指導者研修のこれまでとこれから」／『平成22年度美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修記録集』（独立行政法人国立美術館、2011年3月）

編集、作品解説執筆／『国立美術館アートカード・ガイド』（独立行政法人国立美術館、2011年3月）

発表「ループル美術館—その教育活動の一端から」／美術による学び研究会府中大会（2010年6月27日、府中市生涯学習センター）

発表「ループル美術館における教育普及体制とクラス・ループル」／第49回大学美術教育学会、(武蔵野美術大学、2010年9月19日)

発表「国立美術館のとりくみ—5年間の鑑賞教育研修を振り返って」／平成22年度美術館等運営研究協議会（文化庁主催、学術総合センター、2011年2月1日）

◆大谷省吾

「展覧会予告 麻生三郎展」／『現代の眼』583号

「展覧会予告 生誕100年 岡本太郎展」／『現代の眼』585号

「森口多里の生涯と仕事」／『美術批評家著作選集 第4巻 森口多里』（ゆまに書房、2010年6月）

「安井曾太郎／高松次郎 『影』を見つめてデッサンをきわめる 絵画を支える『影』の存在」／『美術の窓』324号（生活の友社、2010年9月）

「実験工房—メディアの交差点」／『ドキュメント実験工房』（東京パブリッシングハウス、2010年11月）

「外山卯三郎の生涯と仕事」／『美術批評家著作選集 第7巻 外山卯三郎』（ゆまに書房、2011年1月）

「麻生三郎の絵画」、章解説／『麻生三郎展』カタログ

「岡本太郎なんて、ケトバシてやれ!」、章解説、作品解説／『生誕100年 岡本太郎展』カタログ

「シルエットと表現」、「須田国太郎と影」、「影から読み解く北脇昇」、「高松次郎の影—実在と不在をめぐる探究」／『陰影礼讃 国立美術館コレクションによる』展カタログ（国立新美術館、2010年9月）

「人と自然をつなぐもの—奥谷博の近作をめぐる」／『奥谷博自選展』カタログ（池田20世紀美術館、2010年10月）

講演「麻生三郎展講演会」／『麻生三郎展』（東京国立近代美術館、2010年11月）

20日)

講演「影から読み解く日本近代洋画」/『陰影礼讃 国立美術館コレクションによる』展(国立新美術館、2010年9月12日)

◆蔵屋美香

「[コレクションを中心とした小企画] いみありげなしみ」/『現代の眼』581号

「平成21年度の新収蔵作品(美術作品)について」/『現代の眼』582号

「作品研究 榎倉康二のしみ—『いみありげなしみ』展覚え書き」/『現代の眼』583号

「近代美術の眼 榎倉康二《二つのしみ》」/『読売新聞』(都内版、2010年4月23日)

“What is the ‘museum piece’ and who the museum pieces are for?” Lecture at “Seminar: A Curatorial Discourse on the Making of an Art Work” (12 Gallery, Kuala Lumpur, Malaysia, 2010年7月9日)

「いみありげなしみ」/『いみありげなしみ』展ブローシャ

「日本近代美術と中村屋サロン—荻原守衛と中村彝の場合—」/『新宿中村屋に咲いた文化芸術』展カタログ(新宿歴史博物館、2011年2月)

第54回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展日本館コミッションナー指名コンペ参加(2010年6月)

特別講義「人はなぜ描いてしまうのか?—ひとつのしみ、ひとかたまりの絵具—」(武蔵野美術大学油絵研究室、2010年9月30日)

講演「大正期の美術と中村屋サロン」(新宿歴史博物館、2011年2月20日)

◆鈴木勝雄

「塑像という迷宮」/『現代の眼』584号

「造形の凹み・穴・空洞」/『現代の眼』586号

「近代美術の眼 松本竣介《建物》」/『読売新聞』(都内版、2010年12月10日)

「空虚の形態学」/『空虚の形態学』展ブローシャ

◆都築千重子

「マチエール(画肌)の魅力—画面の多様な表皮」/『現代の眼』586号

「近代美術の眼 南薫造《少女》」/『読売新聞』(都内版、2010年5月14日)

「近代美術の眼 梅原龍三郎《北京秋天》」/『読売新聞』(都内版、2011年3月11日)

文献目録/『麻生三郎展』カタログ

作家作品解説/『Realism in Asian Art』カタログ(The National Art Gallery, Singapore, National Museum of Contemporary Art, Korea, 2010年4月)

特別講義「近代日本版画の歩みとその特性」/武蔵野美術大学版画研究室、2010年9月9日)

◆鶴見香織

「作品研究 菱田春草《賢首菩薩》—朦朧体の次にあるもの」/『現代の眼』581号

「展覧会予告 「日本画」の前衛 1938—1949」/『現代の眼』584号

「上村松園展」／『新美術新聞』1225号(2010年9月1日)
作品解説／『日本の美術Ⅴ 水墨画』(美術年鑑社、2010年10月)
作品解説／『趣味の水墨画』258号(ユーキャン、2010年10月)
「近代美術の眼 徳岡神泉《椿》」／『読売新聞』(都内版、2011年2月25日)
作品解説／『上村松園展』カタログ

◆中林和雄

「絵画の近頃」／『視覚の現場：四季の綻び』8号(醍醐書房、2011年2月)
発表 シンポジウム「正木隆」(武蔵野美術大学、2010年5月27日)
講演「ビデオの時間」(京都工芸繊維大学、2010年11月16日)

◆中村麗子

「実験の場としての庭—「庭—作家の小宇宙」にちなんで(コレクションによる小企画 テーマで歩こう)」／『現代の眼』581号
「展覧会予告 上村松園展」／『現代の眼』582号
作品解説／『日本の美術Ⅴ水墨画II』(美術年鑑社、2010年10月)
「近代美術の眼 青木繁《運命》」／『読売新聞』(都内版、2011年1月14日)
「(「日本画」の前衛 1938—1949)展紹介 ぎゃらりいモール」／『読売新聞』(2011年2月1日)
「木という素材に対する態度—橋本平八を起点に、仏像から現代の作家まで」／『REAR』25号(リア制作室、2011年2月)
「上村松園、その画業に託されたもの」、章解説、作品解説／『上村松園展』カタログ
講演 上村松園展開催記念セミナー「上村松園、絵筆に託された情熱」(SPACE NIO (日本経済新聞社東京本社2Fスペース)、2010年10月1日)

◆保坂健二郎

「資料紹介 長谷川利行作《カフェ・パウルスタ》の調査報告：来歴、「価格」、主題、修復、成分分析、X線透過写真について」／『東京国立近代美術館研究紀要』15号
「たとえば照明を暗くしてみる：美術館での共感覚的体験を目指して」／『現代の眼』583号
「長谷川利行《カフェ・パウルスタ》収蔵の経緯と修復・分析の報告」／『現代の眼』584号
「「建築はどこにあるの？ 7つのインスタレーション」イベント：ダンスパフォーマンス アフタートークから」／『現代の眼』585号
連載「美術」／『すばる』(集英社、2010年4月～2011年3月)
連載「視線」／『朝日新聞』(2010年4月18日、5月23日、6月27日、8月1日、9月12日、10月10日、10月31日、11月28日、2011年1月9日、2月13日、3月3日)
「所蔵作品展のススメ。」／『東京人』(都市出版社、2010年5月)
「「お笑い」を見て「アート」を考える」／『視覚の現場：四季の綻び』5号(醍醐書房、2010年5月)
「座談会：2010年代はどこへ向かうのか？」／『美術手帖』937号(美術出版社、2010年6月)
「鑑賞席：東京国立近代美術館 建築はどこにあるの？ 7つのインスタ

レーション』／『文部科学時報』(ぎょうせい、2010年7月)
「滅私的なキュレーターを目指して」／『慶應義塾大学アート・センターARTLET』(慶應義塾大学アート・センター、2010年9月)
「近代美術の眼 A.D.クリスチャン《Hayama》」／『読売新聞』(都内版、2010年9月10日)
「現代美術の歩き方 今月の一品」／『美術の窓』325号(生活の友社、2010年10月)
「服部一成、自然体のアクティヴィスト」／『服部一成(世界のグラフィックデザイン95)』(ギンザ・グラフィック・ギャラリー、2010年11月)
「近代美術の眼 長谷川利行《カフェ・パウリスタ》」／『読売新聞』(都内版、2010年11月12日)
「セッション3 絵画のオルタナティヴ」／『国立国際美術館新築移転5周年記念シンポジウム 絵画の時代—ゼロ年代の地平から 記録集』(国立国際美術館、2010年12月)
「インタビュー」／『100人で語る美術館の未来』(慶應義塾大学出版会、2011年2月)
「裏」を知るがゆえの贈与」／『美術手帖』948号(美術出版社、2011年2月)
「岡本由加」、「高橋鉄治」、「土屋康一」、「藤田雄」、「馬場悠斗」、「森陽香」／『障害者アートの推進及び全国普及事業 ～わが国における障害者の芸術作品調査研究～ 平成22年度報告書』(社会福祉法人 滋賀県社会福祉事業団、2011年3月)
「建築はどこにあるの?」／『建築はどこにあるの? 7つのインスタレーション』展カタログ
「手探りのドローイング」／『手探りのドローイング』展ブローシャ
講師「ファッションエデュケーション歴史講座 アート」／野毛Hana＊Hana委員会(野毛Hana＊Hana、2010年5月16日、6月6日)
審査員「千代田芸術祭「3331アンデパンダン展」」／3331 Arts Chiyoda、(アーツ千代田3331、2010年9月11日)
審査員「第63回岩手芸術祭」／岩手県教育委員会ほか(岩手県民会館、2010年9月12日)
パネリスト「CCAキュレーター・ミーティング2010」／現代美術センターCCA北九州(現代美術センターCCA北九州、2010年10月1日～3日)
パネリスト「批評!!」／美術犬(I.N.U.)(Studio White CAB、2010年10月9日)
講演「日本のアール・ブリュットについて」／Halle St Pierre, Paris (Halle St Pierre, Paris、2010年10月17日)
講演「東北文化の日トークイベント 美術と建築」／菅野美術館(菅野美術館、2010年11月28日)
講演「curatorという仕事におけるcureとcareについて」／京都造形芸術大学芸術学部芸術表現・アートプロデュース学科(京都造形芸術大学、2010年12月1日)
シンポジウム「美術館におけるファッション展再考」／服飾文化共同研究拠点「現代日本ファッション・デザインの研究」チーム(文化女子大学文化ファッション研究機構共同研究室、2011年1月21日)
審査・トーク「ポコラート全国公募展2011」／千代田区(アーツ千代田3331、2011年1月28～2月10日)
企画運営・モデレーター「シンポジウム アール・ブリュット研究の最先端」／アメニティフォーラム実行委員会(大津プリンスホテル・コンベンション

ンホール淡海、2011年2月5日)

推薦委員「現代美術の展望VOCA展2011」/VOCA展実行委員会(上野の森美術館、2011年3月14日~30日)

◆増田玲

「鑑賞の位相—美術出版社刊『日本の彫刻』をめぐって」/『東京国立近代美術館研究紀要』15号

「展覧会予告 鈴木清写真展 百の階梯、千の来歴」/『現代の眼』583号

「近代美術の眼 中川政昭《TYO-No.223 渋谷区(渋谷駅ハチ公前交差点脇からセンター街方向)》」/『読売新聞』(都内版、2010年6月11日)

「近代美術の眼 神谷俊美《「東京神話」より 清新町1丁目》」/『読売新聞』(都内版、2010年7月9日)

「写真集への旅」/『鈴木清写真展 百の階梯、千の来歴』カタログ

「モダニズムの影、始原の影」/『陰影礼讃』展カタログ(国立新美術館、2010年9月)

「文脈をとらえ直す—1960年代末から1970年代初頭の美術と写真について」/『Seeing—6人の作家による写真表現』展カタログ(富士ゼロックスアートスペース、2010年11月)

◆松本透

「原口典之一物質と非物質」/『美術フォーラム21』23号(醍醐書房、2010年11月)

「麻生三郎のリアリズム絵画」/『麻生三郎展』カタログ

作品解説/『生誕100年 岡本太郎展』カタログ

◆水谷長志

編著『MLA連携の現状・課題・将来』/ (勉強出版、2010年6月)

「〈動向〉 専門図書館におけるアーカイブズ学の流入と展開—専門図書館協議会での言説を中心に」/『アーカイブズ学研究』13号(日本アーカイブズ学会、2010年11月)

「artlibraries.netと「美術書誌の未来(FAB: the Future of Art Bibliography)」会議(2010.10.28-30, Gulbenkian, Lisbon) 参加報告」/『アート・ドキュメンテーション通信』88号(アート・ドキュメンテーション学会、2011年1月)

「鑑 文化芸術へのいざない 国立美術館の情報発信—館(やかた)の壁を越えて、MLAが連携するために」/『文化庁月報』509号(文化庁、2011年2月)

「国立美術館の情報発信—近年の展開と発信」/『全国美術館会議 学芸員研修会 報告書』(全国美術館会議、2011年3月)

「美術ワーキンググループ ヒアリング(アーカイブ関係)」/文化審議会第8期文化政策部会美術ワーキンググループ第3回(文化庁、2010年5月7日)

発表「極私的アート・アーカイヴ小史」/アート・ドキュメンテーション学会(慶応義塾大学、2010年6月13日)

発表「総論 美術情報・資料の活用法—提供と利用のはざまにおいて」、「第III講 今日の図書館から俯瞰する美術館の資料活動」、「第IV講 電子的リソース(二次資料)」/全国美術館会議(愛知芸術文化センター・アートスペースEF、2010年9月9日~10日)

発表「AAMLは(manuscript+ephemera) archives: Today's Ephemera, Tomorrow's

Historical Documentation]／アート・ドキュメンテーション学会(東京国立近代美術館講堂、2010年10月9日)

発表「ARLIS at 40—美術図書館協会(ARLIS)の活動の足跡とその出版物」／アート・ドキュメンテーション学会(同志社大学室町キャンパス寒梅館、2010年11月14日)

◆三輪健仁

「展覧会予告 パウル・クレー展—おわらないアトリエ」／『現代の眼』586号

「REVIEWS 鋳物と壁を(仮に)連想してみる」／『美術手帖』948号(2011年2月)

シンポジウム「なにかいってくれ いま さがす—半影のモンタージュ」／港区アート・アーカイヴ＝地域芸術資源採掘プロジェクトMARM(慶応義塾大学三田キャンパス、2011年1月30日)

◆小林美香

鈴木清写真集解説／『鈴木清写真展 百の階梯、千の来歴』カタログ

翻訳：マヒル・ボットマン「アシンメトリーな蜘蛛の巣」／『鈴木清写真展 百の階梯、千の来歴』カタログ

◆柴原聡子

「「建築はどこにあるの? 7つのインスタレーション」イベント：ダンスパフォーマンス アフタートークから」／『現代の眼』585号

「展覧会という空間を考えることの可能性」／『視覚の現場：四季の綻び』8号(醍醐書房、2011年2月)

◆藤田百合

執筆・編集『生誕100年 岡本太郎展 子どもセルフガイド』

執筆・編集『MOMATコレクション 子どもセルフガイド』

2 工芸館

◆今井陽子

「展覧会予告 ガラス★高橋禎彦展」／『現代の眼』585号

「高橋禎彦 私の仕事」／『現代の眼』586号

「子ども工芸館 イロ×イロ」「おとな工芸館 イロ×イロ」「布のイロ×イロ 子どもとおとなの自由研究」／『子ども工芸館／おとな工芸館 イロ×イロ』展セルフガイド

「工芸家の交流と制作：友禅をめぐる二つの『個』」／『工芸の見かた・感じかた：感動を呼ぶ、近現代の作家と作品』(淡交社、2010年10月)

「人形をめぐる幾つかの視点」／『美学美術史論集』(成城大学文学研究科、2011年3月)

コラム、作品解説／『ウィーン、ロンドン、都市に生きた陶芸家 ルーシー・リー展』カタログ(日本経済新聞社、2010年4月)

作家解説／『現代工芸への視点—茶事をめぐって』展カタログ

「ガラスをめぐる冒険」『ガラス★高橋禎彦展』カタログ

講演 石川支部無形文化財事業「現代工芸への視点」／主催：日本工芸会石川支部(会場：金沢市文化ホール、2011年2月20日)

作品解説及び鑑賞のヒント「十三代今泉今右衛門《色絵かるかや文鉢》」、「生野祥雲齋《虎圏》」、「川上南甫《凝視》」、「福田重雄《Victory》」、「ヤン・トーロップ《デルフト・サラダ油》」／『国立美術館アートカード・セット』(2011年3月)

◆唐澤昌宏

「自身を織り込む一中島晴美の陶造形一」／『陶説』688号(日本陶磁協会、2010年7月)

「宮田亮平新作展に寄せて」／『美術の窓』通巻342号(生活の友社、2010年7月)

「工芸技術の伝承と教育—その現状と工芸界の取り組み」／『工芸の見かた・感じかた』(淡交社、2010年10月)

「辻晋堂の陶彫作品を考える」／『陶説』695号(日本陶磁協会、2011年2月)

「若尾経 フォルムと融合する現代の青瓷」／『炎芸術』105号(阿部出版、2011年2月)

「現代工芸への視点—茶事をめぐって」／『現代工芸への視点—茶事をめぐって』展カタログ

「渡邊明の存在証明」／『渡邊明ガラス展 光のポリフォニー』カタログ(日本橋三越本店、2010年7月)

「加藤孝造の作陶—瀬戸黒・志野・黄瀬戸を中心に—」／『加藤孝造展』カタログ(多治見市文化工房ギャラリーヴォイス、2010年9月)

「伝承から伝統へ、山岸一男の沈金表現」／『沈金象嵌 山岸一男展』カタログ(山岸一男、2010年11月)

「坪井明日香の陶芸—その歩みと展開」／『坪井明日香—わが心の軌跡—』展カタログ(パラミタミュージアム、2010年11月)

「平成21年度の新収蔵作品(工芸作品)について」／『現代の眼』582号

「展覧会予告 現代工芸への視点—茶事をめぐって」／『現代の眼』582号

「アーティスト・トークから 伊勢崎晃一朗、川瀬忍」(文責)／『現代の眼』585号

「ウィーン、ロンドン、都市に生きた陶芸家 ルーシー・リー展」／『文化庁月報』通巻499号(2010年4月)

「『ウィーン、ロンドン、都市に生きた陶芸家 ルーシー・リー展』に寄せて」／『陶説』685号(日本陶磁協会、2010年4月)

「瑞々しい驚きと発見に満ちた陶芸 ウィーン、ロンドン、都市に生きた陶芸家 ルーシー・リー展」／『新美術新聞』No.1216(美術年鑑社、2010年5月21日)

「鑑 文化芸術へのいざない『特別展 現代工芸への視点—茶事をめぐって』」／『文化庁月報』通巻504号(2010年9月)

「特別展 現代工芸への視点—茶事をめぐって」／『文化庁月報』通巻504号(2010年9月)

「工芸のイメージとこれからの工芸」／『日展ニュース』No.138(社団法人日展、2010年9月)

コラム、作品解説／『ウィーン、ロンドン、都市に生きた陶芸家 ルーシー・リー展』カタログ(日本経済新聞社、2010年4月)

作家解説「江田恵、金重有邦、林邦佳、若尾経、渡邊明」／『現代工芸への視点—茶事をめぐって』展カタログ

作品解説「青野武市《金赤被椿文蓋物》」／『チャイム銀座』通巻323号（和光、2010年9月）

作品解説「畠山耕治《四つの面》」／『チャイム銀座』通巻324号（和光、2010年10月）

講演「日本の工芸のいま（日展の工芸について）」／日展、国立新美術館講堂（2010年11月6日）

発表「陶による造形表現の可能性について」／山口県立萩美術館・浦上記念館（2010年10月16日）

特別講義「現代日本の陶芸家とその作品」／ファエンツァ陶芸美術学校（2010年10月26日）

講演「陶芸家・辻清明の眼—作品とコレクション—」／愛知県陶磁資料館（2011年1月16日）

◆木田拓也

発表“*A Trial Tea Party at the Crafts Gallery, 6th Asian Museum Curators' Conference in India, Venkatappa Art Gallery, Bangalore, October 20, 2010*”

講演「工芸のいまを考える」(愛媛県美術館、2010年10月11日)

「1960年代以降の日本の工芸」『四国新聞』2010年7月14日(朝刊)

論文‘John D. Rockefeller III’s Travels in Japan in the 1950s: Japanese Crafts and USA “Soft Power” in the Cold War Era,’ *Design and craft: a history of convergences and divergences*, Koninklijke Vlaamse Academie van België voor Wetenschappen en Kunsten, 2010.9.

「工芸家の工芸研究：『伝統工芸』を確立した近代の工芸家」『工芸の見かた・感じかた：感動を呼ぶ、近現代の作家と作品』(淡交社、2010年10月)

「『伝統工芸』と倣作：草創期の日本伝統工芸展の模索」『東京国立近代美術館研究紀要』第15号。

◆北村仁美

「ウィーンからロンドンへ：ルーシー・リー、連鎖する創造」、「コラム」、「作品解説」／『ウィーン、ロンドン、都市に生きた陶芸家 ルーシー・リー展』カタログ(日本経済新聞社、2010年4月)

「ルーシー・リーの生涯」／『炎芸術』101号(2010年1月)

序文／『ある日のヴァンガード・コート』展パンフレット(益子陶芸美術館、2011年1月)

「工芸と展覧会：独自の『発表の場』を求めて」／『工芸の見かた・感じかた：感動を呼ぶ、近現代の作家と作品』(淡交社、2010年10月)

「作家年表・参考文献」／『柴木正敏のセラミック・デザイナーリズム&ウェーブ』展カタログ(2010年1月)

作家解説／『現代工芸への視点—茶事をめぐって』展カタログ

「所蔵作品展『現代の人形』によせて」／『現代の眼』585号(2010年12月～2011年1月)

「展覧会予告 柴木正敏のセラミック・デザイナーリズム&ウェーブ」／『現代の眼』584号(2010年10月～11月)

「東京国立近代美術館工芸館 現代の人形—珠玉の人形コレクション」／『文化庁月報』通巻506号(2010年11月)

「柴木正敏のセラミック・デザイナーリズム&ウェーブ」／『文化庁月報』通巻507号(2010年12月)

「近代工芸の名作：所蔵作品展「現代の人形 珠玉の人形コレクション」／『チャイム銀座』通号326 (2010年12月)

「近代工芸の名作：「栄木正敏のセラミック・デザインーリズム&ウェーブ」／『チャイム銀座』通号327 (2011年1～2月)

作品解説／『アート・カード』(日本文教出版、2011年3月)

作品解説／『国立美術館アートカード・セット』(2011年3月)

◆諸山正則

作品解説「木村雨山《華布壁掛》」／『チャイム銀座』321号(2010年6月)

作家解説「池田巖、川瀬忍、長野烈、畠山耕治」／『茶事をめぐって—現代工芸への視点』展カタログ

「今に生きる—青銅の造形」／『畠山耕治—青銅の箱』展カタログ (2010年9月)

作品解説「近代美術館のなかの工芸館—工芸館のコレクションをみる」／『工芸の見かた・感じかた：感動を呼ぶ、近現代の作家と作品』(2010年10月)

「《Orga》、そして「漆が喚起するもの」という」／『田中信行—触生の記憶』展カタログ(2010年11月)

「木彫と陶の世界」／『生命の歓喜 生誕120年記念 河井寛次朗展』カタログ (2010年12月)

作品解説「茂木正敏《天目のディナーウェア》」／『チャイム銀座』327号(2011年1月)

◆金子賢治

「ルーシー・リー論—伝説の解剖と工芸的造形」／『ウィーン、ロンドン、都市に生きた陶芸家 ルーシー・リー展』カタログ(日本経済新聞社、2010年4月)

「ルーシー・リー作品の特質」／『炎芸術』101号(2010年1月)

「中田博士論」／「中田博士展パンフレット」(目黒陶芸館、2010年5月)

「総論 工芸の見かた・感じかた—五つの視点と歴史と」／『工芸の見かた・感じかた：感動を呼ぶ、近現代の作家と作品』(淡交社、2010年10月)

「駒井正人論」／「駒井正人展パンフレット」(目黒陶芸館、2010年10月)

「沈寿官と近代工芸の歴史」／『歴代沈寿官展』カタログ(朝日新聞社、2010年10月)

「新里明士論」／「新里明士展パンフレット」(目黒陶芸館、2010年11月)

「磁器の表現」史と前田明博・久保田厚子／『技と美の出会い 前田明博 & 久保田厚子』展カタログ(岡山県立美術館、2010年11月)

「加藤智成論」／「加藤智成展パンフレット」(目黒陶芸館、2010年12月)

講演「工芸とモダンデザイン：ルーシー・リーの時代」／国立新美術館(2010年5月)

講演「ハンス・コパーの芸術—その構成部分と近代性」／汐留ミュージアム(2010年7月)

講演「陶による造形表現の可能性」／山口県立萩美術館陶芸館開館記念シンポジウム(2010年10月)

講演「形のいろいろ—ハンス・コパー作品の特質」／岩手県立美術館(2011年1月)

講演「ルーシー・リーの陶芸」／パラミタミュージアム(2011年3月)

◆内藤裕子

作家解説「市野雅彦」「小川待子」／『現代工芸への視点—茶事をめぐって』展
カタログ

略歴・用語解説／『ガラス★高橋禎彦』展カタログ

作品解説「高橋禎彦《浮かぶこと》」／『アート・カード』（日本文教出版、2011
年3月）

関連年表／『ウィーン、ロンドン、都市に生きた陶芸家 ルーシー・リー展』
カタログ（日本経済新聞社、2010年4月）

◆齊藤佳代

「こども工芸館 イロ×イロ」「おとな工芸館 イロ×イロ」／『こども工芸
館／おとな工芸館 イロ×イロ』展セルフガイド

作家解説「内田鋼一」「福本双紅」／『現代工芸への視点—茶事をめぐって』展
カタログ

「夏の工芸館プログラムレポート」『現代の眼』585号

略歴・参考文献・用語解説／『ガラス★高橋禎彦』展カタログ

活動報告／『平成22年度 美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導
者研修』（2011年3月）

作品解説「川口淳《Box-Pandora》」／『アート・カード』（日本文教出版、2011年3
月）

作品解説「高橋禎彦《浮かぶこと》」「三輪壽雪《鬼萩割高台茶碗》」「橋本真之
《運動膜・切片群》」「小名木陽一《赤い手ぶくろ》」／『国立美術館アートカー
ド・セット』（2011年3月）

◆稗田竜子

作家解説「新里明士」「前田昭博」／『現代工芸への視点—茶事をめぐって』展
カタログ

作品解説「中島晴美《苦闘する形態V-1》」／『アート・カード』（日本文教出版、
2011年3月）